

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	13 危機管理 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	13.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。	
要素		

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 大学が管理すべき危機を整理検討し、危機管理を全学的体制でおこなうための基本方針を策定する。	→危機管理基本方針の策定及び公表	B
2. 基本方針にもとづいて、全構成員の日常的な危機管理意識を醸成するための研修制度を整備する。	→危機管理のための研修・災害にそなえた訓練への参加人数	C
3. 感染症の被害を最小化するための機動的な組織体制を整備する。	→感染症対策のための一元的な組織の設置	B
4. 自然災害、特に地震にそなえて建物の整備・点検を行う。	→耐震性または耐震改修された建物の割合 (2009年度末までの耐震化率は52.6%、2010年度計画完了後は57.9%：ただし、1981年の新耐震基準以前の耐震改修必要とする上ヶ原キャンパス内の建物（解体予定の建物を除く）に対する、調査・概算の結果、耐震補強が不要な建物及び耐震改修済の建物の割合による。1982年以降の建物は含まない。)	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 13.0.1	現時点における危機管理の全学的体制づくりについては、個別対応の必要に迫られる形となっており、包括的な体制構築には至っていない。
☆	その他	

### ◎効果が上がっている事項

#### 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

☆	小項目 13.0.1	「学校において予防すべき感染症」については保健館長の問題提起を受け、学長を中心とする体制づくりの原案作成を進めつつある。すでにはしかやインフルエンザについては対応のマニュアルができていますので、それが雛型となる。
	その他	

#### 【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

☆	小項目 13.0.1	
	その他	

## ◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
★	小項目 13.0.1
	その他

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
★	小項目 13.0.1
	その他

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★	その他 (自由記述)

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○現時点における危機管理の体制づくりについては、個別的な対応にとどまっている状況であるが、今後全学的な承認のもとで体制を立ち上げるということで、そこに期待をしたい。まずは重要なリスクについて学内の教職員が理解を行い、危機管理意識の向上を行うことが求められるのではないかと。感染症については一元的な組織設置を行っておられることや耐震化については学内で進められており一定の評価はできると思われる。

## 【学内委員】

○危機管理について、今日的なリスクマネジメントの基本方針の策定が望まれます。  
 ○着実な体制整備が期待されます。  
 ○危機管理は、大学を取り巻く状況を考えれば早急な全学体制の構築など対応が必要でしょう。対応を誤れば大きな代償を払うことにもなります。  
 ○全構成員の危機管理意識を醸成することが重要です。  
 ○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、現状説明は目標にも触れながら、もう少しご説明をお願いします。  
 ○改善すべき事項の記述はありませんか。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>


<個別的な指標>
